

浸水想定区域図（御手洗池）

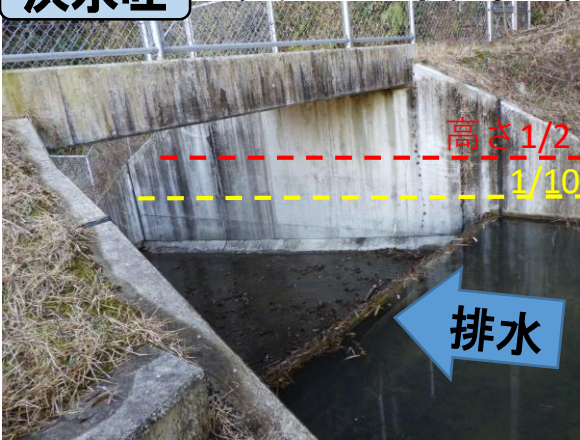


御手洗池は適切な管理がされており、決壊の可能性は非常に低いですが、堤体決壊時の影響範囲を示したものがこの浸水想定区域図です。
貯留水が一気に流れ出す最も危険な場合を想定し作成されています。
池の下流にある水田においては、水深が1mを超える可能性があります。
浸水想定区域図を参考に非常時の避難方法を確認しましょう。

御手洗池

歩行困難度 判定	水が浸かる深さ	
	浅い	深い
遅い ↑ 0.5m/s ↓ 1.0m/s 速い	可能	困難
	危険	危険

洪水吐



2分後

5分後

20分後

可児川

名鉄広見線

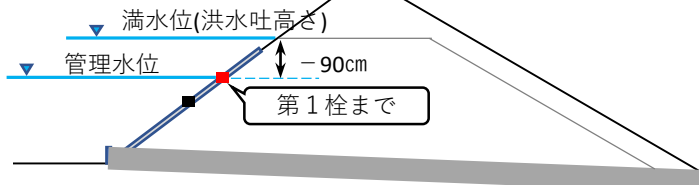
国道21号

ため池諸元	
御手洗池	貯水量 1.1千m3 堤高 4.3m 洪水吐形式 越流堰型 改修歴 平成28年度 老朽化対策

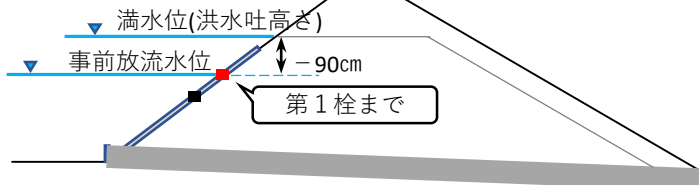
ため池管理水位

農閑期に低水位管理を行うことで地震による決壊被害を小さくできます。
大雨や台風通過が予測されるときには、事前に水位を下げておくことで越水や決壊のリスクを小さくできます。

①農閑期(10月～3月)



②大雨・台風予報時(かんがい期(4月～9月))



御手洗池 管理状況	ため池上流域について
・草刈り：年2回 草刈り時に堤体及び施設の点検（ため池管理アプリや点検チェックシートによる） ・管理水位：左記による ・管理手法について ため池管理マニュアル⇒	上流域から土砂災害警戒区域がため池及び浸水想定区域に重なっており、土石流がため池とその下流に流下してくる可能性があるため注意が必要です。

